

第4章 Q&A

Q1 キャリアデザインを描いても、なかなか思うようにならないので、意味がないのではないですか。

A1 学校という組織で働く上で、自分の思い描いたキャリアデザインがすべて叶うことは難しい側面があります。しかし、P1にもあるように、キャリアデザインは、自らを磨き高い志をもって教職を全うする上で欠かせないものだと考えられます。

そして、キャリアデザインにおいて、目指す教職員像を考える際には、「本当はこうなりたいが、現実的にはこれくらいかな」というように、自分で制限を設けることは望ましくありません。そうしてしまうと、制限したキャリアデザインが上限となり、それ以下の未来しかなくなってしまいます。

Q2 キャリアを考える上で「よいキャリア」「悪いキャリア」があるのですか？

A2 キャリアは人によって千差万別です。キャリアそのものによいキャリアと悪いキャリアがあるわけではなく、キャリアに成功や失敗があるわけでもありません。キャリアについて評価を行う際は、キャリアを歩んできた本人自身の評価が大切です。キャリアを自分で評価する際は、他人のキャリアとの比較ではなく、自分が思い描いたキャリアデザインと現実とを対比して評価することや、仕事に対するやりがいや充実感等を感じているかで評価することが必要です。

Q3 キャリアデザインを描いたり、見直したりするタイミングが分かりません。

A3 キャリアデザインを描く最初のタイミングは、教職員となつてからある程度経験を積んだ時だといえます。もちろん、まだ立てていない場合でも、キャリアデザインを考えるのに遅すぎることはありません。また、キャリアデザインは、柔軟に見直していくことが大切です。どのようなタイミングで見直すのかというと、「『節目』にさしかかった」と自分が感じた時といわれています。

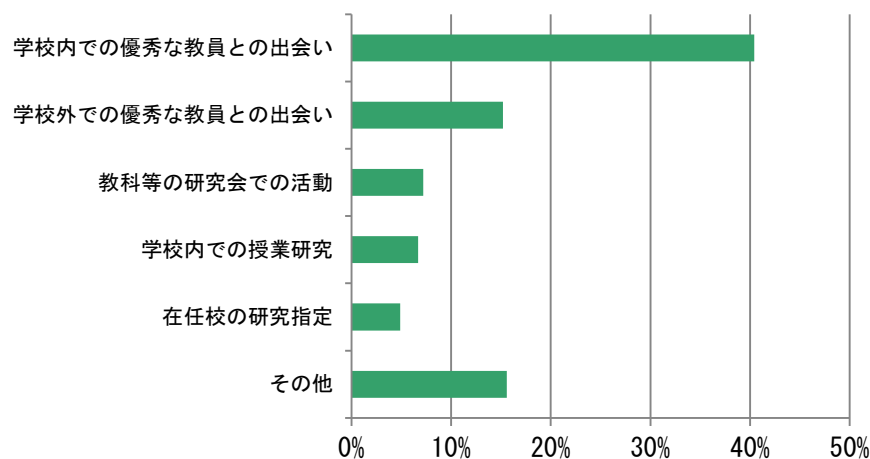
<キャリアデザインを描いたり見直したりする「節目」の例>

項目	タイミング例
1 経験や年齢等	●教職経験が10年、15年、20年等を過ぎた時 ●年齢が30歳、40歳、50歳になった時
2 仕事や環境の変化	●校務分掌等の変化 ●異動 ●教諭から指導教諭への昇任などの職の変化
3 危機感	●仕事がうまくいかないと感じた時 ●他の人についていけないと感じた時
4 充実感ややりがい	●仕事が楽しくて仕方ない、もっと他のことにもチャレンジしたいと感じた時
5 上司や同僚等からの指示や声かけ	●上司から仕事を任せられた時 ●アドバイスを受けた時

Q 4 キャリアデザインを考えようとしても、なかなか思いつきません。どのように考えればよいですか。

A 4 キャリアデザインをなかなか考えることができない場合は、モデルを参考に考えることが有効です。これまで出会った教職員の中で、自分に影響を与えた人や尊敬できる人の教師としての歩みを聞き取るなどすると参考になると思います。モデルは一人に限らず、複数のモデルを参考に、デザインしていく方法もあります。また、スーパーティーチャーの授業公開に参加したり、スーパーティーチャーに話を聞いたりして、キャリアデザインを描くことも考えられます。

優秀教員の考え方に影響や変化を及ぼしたと思われる事柄



国立教育政策研究所 教員の質の向上に関する調査研究（平成23年3月）

Q 5 30代後半で教職員として採用され3年目を迎えました。ライフステージに応じて求められる資質・能力をどのように考えればよいですか。

A 5 P 4 1の「ライフステージに応じて求められる資質・能力」に示した年齢や経験年数は一つの目安であり、自分の現状を分析して、どこのライフステージに該当するのか確認することが大切です。そして、今後の教職生活を見通しながら、キャリアデザインを描く必要があります。

Q 6 キャリアデザインの必要性について、詳しく教えてください。

A 6 子どもたちの「自分探しの旅」を手助けする、教師である私たち自身が、自分の将来について真剣に考え、キャリアアップを図っていくことが、子どもたちの未来を支えていく大きな力となります。

キャリアデザインは、自らの職業生活における将来の目標やゴールを定め、それを実現するための計画を立てるものです。目標やゴールがあれば、モチベーションも高まり、仕事が充実するなどの良さがあります。

子どもたち一人一人に無限の可能性があるので、教師である私たちの生き方にも無限の可能性があります。自身の可能性を自らが思い描き、より主体的に自らを輝かせながら歩んでいただきたいと願い、この冊子をとりまとめました。